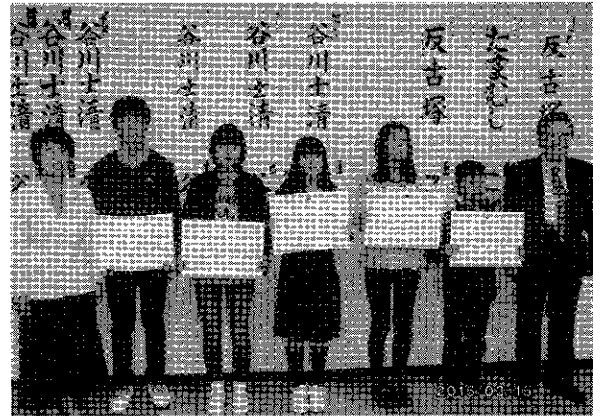


審査委員講評【稲垣無得先生】

全部で七百点近い作品だったが、丁寧に審査した。まず第1段階として30点ずつ掲示の繰り返しをして、100点程に絞り、それを受賞点数に絞っていき、最後に各賞を決める。甲乙つけがたいのを、大賞以下に分けていく際には文字の配置がしっかりしているか、線の先まで力がこもっているか、名前もしっかり書いてあるかなども見ました。皆さんの字は教育書道としての立場から見ていきました。芸術書道という分野もあるが今はその立場ではない。文字を書くのは「心画」である。心の中にあるものを正しく書き出す、一点一画まで気持ちを込めてね…。(以下略)



上位受賞者記念撮影(稲垣先生、馬場代表と)



小学生の部特選



中学生の部特選

平成 25 年度の県外研修会報告

山本浩子会員(企画と文)

- ◆日時：平成 26 年 4 月 12 日(土) 津駅前 7:30 発～9:40 京都着の高速バス。帰途は近鉄。
- ◆行き先：京都(北野天満宮と妙心寺) 参加者(安保・池村・梅原・尾市・佐野明・馬場・山本・山下・佐野萬士清は 20 歳代のころに京都に遊学、いろいろな勉強をしたが、さて現在に残る遺跡はなくて、結局『日本書紀通証』全巻を奉納した納票が残っているということで、北野天満宮周辺に決めた。総勢 9 名、枝垂れ桜のころに出かけた。京都までは高速バスを使い、市バスに乗って北野天満宮着。正門・一の鳥居から三光門を越え、まずは宝物館へ。正面に日本の古地図が書かれた大きな銅鏡(加藤清正が奉納)。有名な菅原道真の「北野天神縁起絵巻」や歌の短冊、刀剣などがあり、長谷川等伯の描く大きな絵馬「昌俊弁慶相騎図」もあった。この天満宮の境内で秀吉の催した豊太閤北野大茶湯の高札にその大茶会を偲んだりしたが、肝心の士清の奉納したはずの「日本書紀通証」の存在は不明らしい。

八棟造の朱色の社・拝殿を参拝し、桜の若葉のころの神域を巡り歩く。馬場さん案内のキリシタン灯籠や京都に数少ない「お土居」の跡を佐野さんたちと一緒に見て、その頃の京の町に思いを馳せた。

次いで、嵐電(北野線)で妙心寺に向かう。ちょうどお昼の時間、予約しておいた店「萬長」でお弁当を食べ、午後は妙心寺の北門より境内に入る。臨済宗の中でも妙心寺派の大本山であり、境内には 50 余りの塔頭寺院がある。広い境内を北から南へ歩く。禅宗寺院の壮大な伽藍・仏殿と法堂を見る。法堂の天井の狩野探幽の描く「雲龍図」を見上げ、大建築の本堂の廊下に妙心寺派の全国の寺院名が掛けられてあるのを見つけ探してみると、三重県の所に士清の菩提寺「福蔵寺」の名札が確かにあった。他に鐘楼や明智風呂なども見学。その後、「しだれ桜見頃」の案内に導かれて塔頭の一つ退蔵院へ。

茶の庭や有名な「瓢箪図」のレプリカも見したが、圧巻はしだれ桜であった。あのように美しく美しいしだれ桜を見たことがなかった。

帰りは JR 花園駅から京都へ、そこから近鉄特急にて津に帰った。全員無事。快い疲れだった。

